

地理の「TO学習」が新聞に掲載されました。

7月11日(火)に実施した「TO学習」の取材記事が、翌日の7月12日(水)付け朝日新聞に大きく掲載されました。この日の「TO学習」は、6年次生が5年次生に「地理」を教えるというミッションでした(ドリーム第267・268号参照)。

6年次生・5年次生各1名のコメントが素晴らしいです。私のコメントも「学習効果はもちろん、学年同士の交流にもつながる。まだ始まったばかりだけど、全国に広がって欲しい」と書いていただきました。私は、「TO学習」によって、「アクティブ・ラーニング」が「深い学び」へと深化すると考えています(^_^)。

教えて高める論理的思考力

地理の「TO学習」で、演習問題について話し合う生徒たち。つくば市並木



並木中等「TO学習」

生徒が能動的に学ぶ「アクティブ・ラーニング」の一環として、つくば市の並木中等教育学校が他学年の生徒が教え合う「TO学習」を導入している。学年を縦割りにし、上級生が下級生に教えることで両学年の理解度を深め、論理的思考力を育てるのが狙い。

「TO学習」はティーチング・アザーズ(他の人に教える)の略で、中島博司校長(58)が考案した。はじめて実践された今年1月の数学の授業では、2年次生が実力テストについて質問し、高1にあたる4年次生が解説。授業後のアンケートでは、下級生からは「先輩と一緒に考えることで理解できた」、上級生は「ひたすら勉強するよりも力がつく」など、効果を実感するコメントが寄せられた。4回目となる11日の地理

の「TO学習」では、5、6年次生76人が参加した。学年の違う生徒同士でペアを組み自己紹介をすると、配られた演習問題を5年次生が解き、事前に問題を予習した6年次生が解説した。

6年次の佐藤陽香さんは「教えるためにはより深く問題を理解する必要がある。自分が一番勉強になりました」。5年次の岩田瞭君は「相手と同じ目線の生徒なので、躊躇なく質問できるしわかりやすい」と話した。

並木中等は9月に国語と化学の「TO学習」を予定しており、今後も教科を広げていく予定。中島校長は「学習効果はもちろん、学年同士の交流にもつながる。まだ始まったばかりだけど、全国に広がってほしい」と話した。(林将生)

◆二〇一七年七月一二日付 朝日新聞